北海之光
12月号　北海道教区報

ハレルヤ　新しい歌を
主に向かって歌え
詩編149編1節

発行所　北海の光社
001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12
日本聖公会北海道教区事務所
電　話　011－717－8181
ＦＡＸ　011－736－8377
E-mail:hikari@nskk-hokkaido.jp
http://www.nskk-hokkaido.jp
発行人　笹森田鶴

天よ、開け

苫小牧聖ルカ教会牧師
室蘭聖マタイ教会管理牧師
司祭　グレゴリー　松井新世

某日、どんよりとした日和で、うっかり部屋を暖かにし過ぎ、うとうととしてしまった。この一年のありようが示されたようでもあった。

その数時間後か。視界が一時なくなるほどの雪が風に流されてきた。視界がだんだんはっきりしてくると、目前の光景は紫をたっぷり含んだ灰色の濃淡で囲まれていた。

その内に空の、同じ灰紫色の一部分が割れ、そこに次第に微かな光が重なり合い、それが一筋の黄金の束として天から垂れ下がって来た。所謂「ヤコブの梯子」と呼ばれる光景だった。

「（ヤコブは）夢を見た。すると、先端が天にまで達する階段が地に据えられていて、神の使いたちが昇り降りしていた。」（創世記二八：一二）ただそこには昇り降りする天使の姿は見えなかった。もし天使の姿が見えたならば、私はヤコブになりかけたことになってしまい一大事であった。もし、天使が、私が許すからこの梯子を昇って天国を覗いてきてもいいよ、と言われたら、私は断るだろうか。

今年弟が亡くなった。葬儀にも出られなかった。今だったら、天使に懇願し、弟の顔を一目見に行こうとも考えてしまう。でも結局は、天使に会う時点で足がすくんでしまうだろう。

「その地方で羊飼いたちが野宿しながら、夜通し羊の群れの番をしていた。すると、天使が現われ、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。」（ルカ二：八、九）

主イエスがベツレヘムでお生まれになったその夜、町の外では、羊飼いたちが野宿をし、羊の群れを見守っていた。そこに天使が近づいたと聖書は記す。どれ程近づいたのか、他の箇所では「そばに立ち」とあり英語では、upon、触れる、接するとかいう意味の文字が含まれる。田川建三訳は「元に立った」と。つまり寄り添う程近くにと。それ故だろう、羊飼いたちは非常に恐れた。天使は告げた。「恐れるな。私は、すべての民に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町に、あなたがたのために救い主がお生まれになった。」

（ルカ二：一〇、一一）

突然、舞台の幕が上がるように天が開く。幕の向こうには天の大群が控えていた。その時天使たちが声を合わせて歌っていたのが、私たちが歌い継ぐグロリアであった。

さあ大変、羊飼いたちは、急ぎ足でダビデの町に行き、「救い主がお生まれになった！」と尋ね歩いたのだろう。小さな伝道者の如く。幼子イエスを探し当てた彼らは、天使たちに倣い、神を賛美し、夜の羊の番に戻った。

クリスマスは、天使が活躍する時、恐れの内にある者に天使が現れる。あの時、マリアもヨセフも、今日、この時も、あの夜同様、天使が世界中を駆け巡る。天使に羽のイメージは時や場所を超越してということなのだろう。

現代、天使はいないのか。ある者は指摘する。天使（ギリシア語＝アンゲロス）は伝道者（ユーアンゲリステース）とよく似ていると。しかしこれはあまりに畏れ多い指摘。お腹が出てふらふらと歩く者が天使だとは。しかし、これは私だけではない。天使から触れて頂き、恐れある者に寄り添い、天使から教わった賛美をして歩くのは。もしかもしかしたら、あなたかもしれないし、隣に座る者かもしれない。無名の天使たちが存在する限り、天は、開き続けているはず。

か細く輝く暁の星が闇に消えていく。クリスマスへとバトンが渡されていくのだ。

メリー・クリスマス！

日本聖公会北海道教区第八二（定期）教区会主教告辞

主教　マリア・グレイス
笹森田鶴

【一、はじめに】

北海道教区第八二（定期）教区会開催にあたり、この広い北海道の各地からご参集くださいました教役者議員、信徒代議員、教区役員の皆さま、またこの教区会のためにご準備、ご奉仕くださいます書記局、教区事務所職員の皆さま、会場を提供してくださる札幌キリスト教会の皆さまに深く感謝申し上げます。

昨年に引き続き、コロナ禍にあっても可能なことを模索しつつ、対面での教区会開催を決定し準備を行ってまいりました。ご存知のように、現在北海道では新型コロナウイルス感染者数が他の地域に比較しても増加している傾向にあります。今教区会において、執事按手式をはじめ、重要な報告や議案審議、常置委員選挙、またグループワークの実施の重要性を鑑みまして、感染対策を慎重に積み重ねていくことで対応することといたしました。皆さまのご理解、ご協力をお願い申し上げます。

今教区会に先立ち、北海道教区の一〇年を展望してのグループワークという重要な企画を実施いたしました。皆さまの積極的なご参加に御礼申し上げますとともに、そこで話され、分かち合われたことを丁寧に集め、これからの宣教活動に生かして参ります。

これから行われます、北海道教区の重要な意思決定機関であるこの第八二（定期）教区会に、聖霊のお導きが豊かにありますことを心から祈り求めます。

【二、主教按手・教区主教就任への感謝】

本年、わたしたち北海道教区は大きな変化を迎えることとなりました。北海道教区を二五年間もの長きに亘り教区主教としてお導きくださったナタナエル植松誠主教さまが三月末に定年退職を迎えられました。言葉に言い表せないほどのすばらしい豊かなお恵みと交わりが、今も北海道教区中に満ちています。改めて感謝と敬意を表します。そして植松主教さまの新しい赴任地、中部教区岡谷聖バルナバ教会での宣教活動のために祈ってまいりたいと思います。

また、四月に北海道教区管理主教を担ってくださった東北教区ヨハネ吉田雅人主教さまにも感謝を表します。教区主教移行の不安定な時期にお隣の東北教区から祈り励ましてくださいました。そのおかげで、無事に主教按手式を迎えることができましたことは大きなお支えでした。

そして何よりも、首座主教ルカ武藤謙一主教さまはじめ、日本聖公会の主教さま方、また北海道教区に連なる教役者・信徒の皆さまが、新主教を迎えるためにご加祷、ご尽力くださり、四月二三日、主教按手式・第九代北海道教区主教就任式を行うことができましたことを、心から感謝し、神を賛美します。

北海道教区は新しい体制となって歩みだしています。主教按手から七ヶ月を経、主教巡回もようやく二巡目に入りました。皆さまが各地で新主教を暖かく迎えてくださることに感謝しつつ、わたしにとって最初の教区会に臨み、その職責の重さをますます感じております。今に至る大いなる導きを我が喜びとし、皆さんと神のみ旨に適う神の家族となっていきたいと願ってやみません。

【三、教役者人事】

教役者の人事異動について申し上げます。今年度は日程的に少々複雑な、そして昨年に続き大きな人事異動となりました。

先述しましたように、今年三月末で植松誠主教さま、阿部恵子司祭が定年退職を迎えられました。これまでのお二人の大切なお働きに感謝申し上げます。阿部恵子司祭は引続き帯広聖公会にて、嘱託司祭および帯広幼稚園嘱託チャプレンとしてお働きくださっています。

四月一日付けで、東北教区の越山健蔵司祭を紋別聖マリヤ教会の嘱託司祭としてお迎えし、飯野正行司祭が同教会の管理牧師として任命されました。また先の帯広聖公会には吉野暁生司祭が管理牧師、上平更司祭が函館聖ヨハネ教会および今金インマヌエル教会管理牧師、木村夕子司祭が道北分区協働司祭（任期一年）、下澤昌司祭が聖マーガレット教会協働司祭、また短期間でしたが、大町信也司祭が平取聖公会および新冠聖フランシス教会管理牧師（四月一日～二二日）に任命されました。広谷和文司祭は、旭川聖マルコ教会嘱託司祭および旭川頌栄保育園嘱託チャプレンとしてご退職後もご尽力いただいておりましたが、五月三一日付けでその任務を終了されています。現職時代から引き続きお働きいただきましたことに、心から感謝申し上げますとともに、そのお体を主が守ってくださいますよう

祈り、これからも教区へご協力くださることを願っております。六月一日付けで池田亨司祭が小樽聖公会牧師に、永谷亮司祭が旭川聖マルコ教会牧師および旭川頌栄保育園チャプレンに任命されました。新しい赴任地での働きが神の祝福に満ちますように祈ります。

またこれまで同様に、内海信武司祭、甲斐博邦司祭、藤井八郎司祭にはそれぞれ嘱託司祭および嘱託チャプレン、また協働嘱託司祭としてお働きいただいております。ことに藤井八郎司祭には治療に専念していただきながらも、その存在において大事な司牧を継続してくださっていることに心から敬意と感謝を申し上げます。また大友正幸司祭、横山明光司祭も多くの主日礼拝にご奉仕いただき、阿部芳克司祭にもこの度ご奉仕に加わっていただきました。これらの退職された司祭さま方のお支えなしには現在の北海道教区の司牧体制は成り立っておりません。この教区会におきまして、改めて退職聖職の皆さま方に深く感謝申し上げます。

そして明日の朝、わたしたちはエリサベト三浦千晴聖職候補生の執事按手式を迎えます。この喜びは北海道教区全体の本当に大きな喜びです。新しい執事を迎え、わたしたちもともに新たにされて宣教に勤しみたいと願い、聖霊の導きを心から祈ります。

一方、これからも教役者数が不足という状況が続きます。新たに聖職志願する方の多くは、わたしたちの教区の信徒の中からしか生まれ出てきません。この北海道教区に奉職してくださる方が主によって召し出されますよう、ご一緒に祈り求めていただきたいと願います。

また聖公会神学院では特任聖職のコースとして来年四月より、そのカリキュラムの一部をネット受講できるよう準備されています。今後多様な聖職・信徒の働きについて、北海道教区でも検討が求められていくこととなりましょう。

【四、第一五回ランベス会議】

今年夏、一四年ぶりにランベス会議が開催され、一六五カ国から主教とその配偶者たちが集まりました。それぞれの霊的刷新をし、各教区やその地域が直面している課題や取り組みについて分かち合い、今後一〇年のアングリカン・コミュニオンの方向性を確認する時となりました。今回皆さまの祈りとお支えにより、按手後間もなく会議へ送り出していただいたことは、本当に有り難いことでした。

すでにご報告しておりますように、会議で話し合われた内容はランベス・コール（呼びかけ）という文書にまとめられます。現在の世界規模の紛争や分断、環境破壊、宗教の名のもとに行われる差別や搾取、セーフチャーチ、福音伝道やキリスト者としての刷新、聖公会のアイデンティティの確認、宗教間の対話など、ことに教会の分裂の痛みと和解のプロセスの共有などに関する多くの課題が取り上げられ、一〇のコール文書にまとめられています。今後最終文書として整備されていきますが、現時点でのコール文案は各教役者にお渡ししており、また管区のHPにてどなたでもご覧になることができますので、ぜひご一読ください。北海道教区としても今後の方向性を示すものとしてのコールを受け止め、世界の聖公会とのつながりにありながらも、地域の課題の中で自分たちの宣教課題を担っていくことを通して応答していくこととなります。

今回のランベス会議で最も注目されたのは、同性愛を公表した方の聖職按手と同性婚の祝福について言及されている「人間の尊厳」のコールでした。意見の相違による分裂が故の緊張の中、ジャスティン・ウェルビー カンタベリー大主教からの強い呼びかけにより、参加主教たちは次のことを確認しました。それは、交わりの中に隔たりがある現実を率直に認め、神学的な立場の相違があっても共に交わりを保ち続ける道を忍耐強く選び、今後も責任的にこの課題に主教として関わっていくということでした。分裂の中での態度表明として大変重要な場面であった一方、その場にいる当事者の同労の主教たちに痛みを負わせたままになっているのではないかと、苦しい思いにもなりました。

意見の相違があること、またLGBTQの当事者の方々がともにいてくださるということにおいて、北海道教区も同様です。少数者の方々がそこにいないかのように振る舞うことからわたしたちが解放され、すべての人間が神から喜んで造られたものであることを認め合い、互いに聴き合う共同体形成のために、神の導きを心から祈り求めます。

【五、牧会体制と教役者のリフレッシュ・研鑽】

昨年の教区会決議により、厚岸聖オーガスチン教会と稚内聖公会がそれぞれ伝道所となり、新しい宣教の器としてすでに出発しました。これまで同様、釧路聖パウロ教会、また道北分区の教会の方々がそれぞれの伝道所の礼拝や営みを共にする機会を持ってくださっています。教区はひとつの大きな教会であり、一つの神の家族であることを、その距離を越えて具体的に担ってくださることに大変感激しております。

他の教会でも、聖職たちはそれぞれの担当の教会をどんなに遠方であろうといくつもの教会間を誠実に行き来し、

礼拝を守り、教会の交わりを整えようと奮闘しています。しかしながら人間である以上どうしても限界があります。そして主教として教役者の体調を非常に案じております。

それぞれが与えられた賜物を十分に発揮することができるよう、教役者の定期的な休日ならびに主日を含めた休暇の積極的な取得、また職務の一環としてのリトリートや研修会への参加を教役者にお願いしております。その実施のために、信徒の方々の一層のご理解とご協力が不可欠です。どうぞ教役者の心と身体、また霊的養いのために祈りとお支えをお願いいたします。

【六、教会の現状と宣教活動】

恐らく一〇年後に起こるであろうと言われていた教会運営に関わる危機的な状況は、このコロナ禍において目の前に迫ってきています。教会が一番大切にしていた「集まる」ことが感染防止対策のために難しくなり、各教会の営みが滞り、大きな打撃を受けてきました。そこに従来のこの地域の急激な過疎化と高齢化社会への移行が重なり、また教役者不足が相まって、現在の各教会の牧会体制や財政状況に直結しています。

それでもここ数年のコロナ禍での経験を経て知恵を出し合い、可能なことを模索し、信仰の光を途切れさせないようにと各地で皆さんがご努力くださっていることに深く感謝を申し上げます。牧会体制や財政状況についての即効の具体策をすぐに見つけることは困難ですが、良い時も悪い時も恵みをくださり、種を撒き続けてくださる神に信頼し、教区と各教会が連携し、これまでとは違う宣教牧会に関する考え方や新しい方策などを教区全体で検討しながら、この局面をご一緒に乗り越えて参りたいと願います。

【七、今後の宣教に向けて】

ここ数年の教区会主教告辞でも表明され、また先のエマオへの道でのグループワークでも分かち合われましたように、二〇二〇年日本聖公会第六五（定期）総会決議により、わたしたちは東北教区、北関東教区、東京教区との宣教協働ならびに教区再編へのプロセスに入っております。現在四教区をふたつに分け、北海道教区と東北教区、また北関東教区と東京教区がそれぞれの宣教協働と教区再編の道を探ることとなりました。北海道教区は新主教とともにこの課題に取り組むことを昨年来確認しております。また、東北教区では、この宣教協働ならびに教区再編に積極的に取り組むために本年一一月三日に臨時教区会を開催し、主教選出を実施されました。選出された長谷川清純司祭、また東北教区のために聖霊の導きをひたすら祈ります。

そして最初の協働体制を組むべく、東北教区とは常置委員同士が四回の懇談会を開催して参りましたが、今後の道筋を明確にするために、それぞれの教区会に両教区のそれぞれの常置委員会から同じ議案を提出することとなりました。今教区会に上程されている議案に示されている両教区の協働のプロセスにより、わたしたちは新しい神の家族との出会いを具体的に経験することになります。そのような新しい出来事が聖霊の導きによって実現され、それぞれの教区の個性を大事にしつつ、霊的刷新や宣教課題への励ましが与えられることを期待しております。

また更なる変化の中で、北海道教区は二〇二四年に宣教開始一五〇年を迎えます。これまでの歩みに感謝するとともに、現在の北海道教区の課題を整理、確認し、将来への展望、また夢を語り合い、これからも地の塩としての使命を北海道教区として果たしていきたいと願い、宣教一五〇年への準備に関する議案も上程されています。

それぞれ、皆さまの積極的なご審議をお願いいたします。

【八、最後に】

今年六月末をもって、日本聖公会最後の修道院であったナザレ修女会が閉院しました。これまで日本聖公会、また北海道教区の霊性を祈りとその生活の姿によって支えてきてくださったナザレ修女会への感謝を、わたしたちは今教区会で表したいと思います。そして新しい生活を始められている霊母や修女たちを、これからはわたしたちも祈りによってお支えしたいと願います。

また、今年二月には司祭バルナバ小貫雅夫司祭を、六月には司祭パウロ三澤康二司祭を神様のみ許にお送りしました。長年のお二人の聖職としてのお働きを心から感謝するとともに、この一年に逝去された信徒の方々もともに、主の永遠の平安のうちに過ごされますことを心よりお祈り申し上げます。わたしたちは、多くの亡くなられた方々の祈りによっても支えられ、今を生きております。すべての命をつなげてくださる主イエスを賛美します。

今教区会期においても、北海道教区のありとあらゆる営み、そして関係するすべての方々に、神様の祝福とお導きが一層豊かにありますようにお祈りいたします。

ご清聴、ありがとうございました。

常置委員会報告
第一三回　一一月一四日

《協議事項》
一、教区会に関する件
・教区会に向けて諸確認を行った。
二、全キリスト教誨師連絡協議会「沖縄研修大会」参加補助に関する件
・出席者に参加費を補助することとした。
三、クリスマス礼拝への矢萩主事招聘に関する件
・帯広聖公会で奉仕して頂くこととした。
四、「信仰デザインノート」「葬儀への備え」に関する件
・大斎始日を目指して発行する方向を確認した。費用は、宣教費より支出することとした。

常置委員会報告
第一回（臨時）一一月二三日

一．常置委員長に大町信也司祭を、書記に小澤暢子さんを選任した。

北海道教区第八二（定期）教区会報告

教区会書記　司祭　ノア　上　平　更

笹森田鶴主教就任後初の、また当日按手された三浦千晴執事を迎えての教区会となりました。初日は研修会「エマオへの道」から開始され、吉野司祭による教区の過去・現在・未来の展望についてのプレゼン、司会の大友宣常置委員より、研修会テーマ聖句（ルカ二四：一三～一五）への思いが分かち合われました。今あるそれぞれの教会の課題や先の見えない社会への不安を共に語り合い、しかし、そこにキリストの導きが与えられていることを信じ、大胆にこの先一〇年の未来について語り合う時間となりました。

主教告辞は、ご巡回二周目に入られ、これまでご覧になった広い道内各地に暮らす信仰の家族からの歓迎と出会いへの感謝と祈りから始められました。またランベス会議において世界の全聖公会の様々な相違の中で共に歩む姿が報告され、その働きは私たちの教区の現実と課題を担う中で共に歩む道であると伝えられました。

二日目早朝、待ち望んでいた新しい執事が教区に与えられました。説教者として、佐々木道人司祭（東京教区・元聖公会神学院校長・現講師）、また同窓の中村真希執事（東京教区）が祭壇に上がり、共に喜びを分かち合いました。「無名の人との出会いを大切にしたい」という三浦執事の召命感を受けての佐々木司祭の説教は、イエス様と気がつかずに出会った弟子たちの場面と重なる言葉であり、また今後の新執事の静かな、一方でキリストに仕える僕としての深慮の働きを予感させる恵みを与えられた思いでした。

議事においては、財政的な課題も十分に議論をされて、宣教の歩みを止めない予算と展望が分かち合われました。今後の東北教区との連携、また、二〇二四年に控えた教区宣教一五〇年に向けた実行委員会の立ち上げ、具体的に動き出すことなどが決議されました。諸部署の準備と奉仕に感謝致します。

教区逝去教役者記念聖餐式

一月一一日（水）
午前一〇時三〇分
於　主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

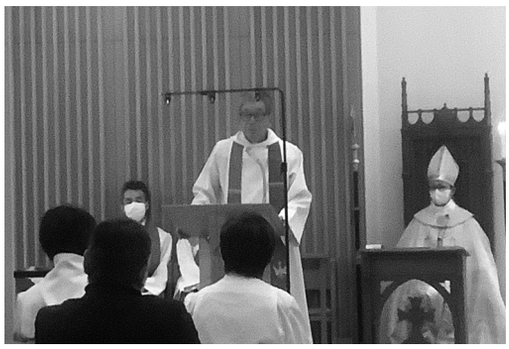
司　祭　ディビッド・M・ラング
一九四六年一月一日
伝道師　千　葉　今
一九四三年一月二日
伝道師　田　澤　廉
一九四五年一月八日
伝道師　エディス・M・ブライアント
一九三四年一月一〇日
伝道師　遠　藤　義　三
一九二三年一月一二日
伝道師　津　田　喜九郎
一九四七年一月一三日
司　祭　松　島　覚太郎
一九六〇年一月一三日
司　祭　八　代　欽之允
一九四六年一月一七日
伝道師　エディス・C・ペイン
一九四七年一月一八日
伝道師　青　山　操
一九〇八年一月一九日
司　祭　小　川　淳
一九〇七年一月二三日
司　祭　松　本　正　雄
一九七一年一月二六日
司　祭　野　坂　保　三
一九七五年一月二八日
司　祭　佐々木　忠　良
二〇〇五年一月二八日
司　祭　遠　藤　栄
一九四四年一月二九日
主　教　フィリップ・K・ファイソン
一九二八年一月三〇日

新執事が与えられた日

～エリサベト 三浦千晴執事誕生～

道北分区協働
司祭 ヘレン 木 村 夕 子

一一月二三日（水）主教座聖堂札幌キリスト教会において教区会聖餐式があり、その中で、エリサベト三浦千晴聖職候補生の執事按手式が行われました。午前八時にアンジェラスの鐘が鳴り、パイプオルガンの奏楽が響き、聖歌の歌声と共に礼拝奉仕者と聖職団の入堂行進が礼拝堂内を祭壇に向かって進んで行き、推薦者に導かれた三浦千晴聖職候補生も厳粛な雰囲気の中を進んで行きました。



司式者は笹森田鶴主教、説教者は東京教区の佐々木道人司祭がご奉仕くださいました。神学院の学友で東京教区の中村真希執事も参列くださいまして、道内各地から集った教区の教役者と教区会代議員や陪席者をはじめ、札幌市内の教会からの信徒たちも喜びの時を見守りました。中でも最も幼い参列者が、この上なく愛らしい姿で祭壇の中央に近づいて来た時には心が温められました。

佐々木司祭は説教の中で、神と人々に奉仕する者の賜物とは、自分自身で認識するものではなく、他の人に発見して知らせてもらう性質のものであるという事、そして神学院での学びの場において理解した、三浦候補生の「ごく普通の小さな人に光をあてたい」という思いについてもお話しくださいました。神さまからの招きを引き受ける時、その人の中から神様の光が明

るく輝きだす、そのような人生をご自身も、そして聖職者として出会う人々にも歩んでもらうことが出来るようにとの祝福をいただきました。

一〇月に帯広で行われた教役者会で、神田日勝記念美術館の拝観をご一緒した際の事を思い出しました。作品の印

象も深いものがありましたが、貧しい暮らしの中で精一杯の情熱がそこにあった事を思わせる展示を前にして、私はただ凄いとしか言えずにいましたが、三浦先生は「本当に凄いよね」と、旧知の友を誇るような眼の輝きを返してくれました。向き合う人の人生の深い所に目を向け、神の祝福を共に求める賜物を感じた時であり、その賜物が聖職団に加えられたことは大きな喜びです。

北海道のコロナ感染者数が全国一位と伝えられる中で奉仕者が交代となる急場や、長年に渡り縁の下でご奉仕くださっていた役割のバトンリレーがあり、その都度快く迅速なご協力をいただいて、あらゆる方面から執事按手式が

作りあげられていったことに心から感謝申し上げます。

北海道教区の教会で信仰生活を営む信徒の中から、神様の呼びかけを受け取る人がさらに起こされますように。

フランシス 長谷川清純司祭 主教被選者に

一一月三日の東北教区第一〇六（臨時）教区会で次期主教に選出された司祭フランシス長谷川清純師が、聖なる公会の主教按手ならびに、東北教区主教就任を受諾されました。

お祈りください。

北海道教区の執事となって

聖マーガレット教会牧師補
札幌キリスト教会協働執事
執事 エリサベト 三浦千晴

私は、一一月二三日降臨節前主日後水曜日、殉教者主教ローマのクレメントの日、主教座聖堂札幌キリスト教会にて、北海道教区主教マリア・グレイス笹森田鶴主教より按手いただき、使徒たちからの聖なる公会の執事の職位に聖別されました。

この日の礼拝において選ばれていた福音書は、ルカによる福音書第一二章三五節から三八節でした。この短い箇所に、「主人が帰って来るいついかなる時にも、帯を締め、目を覚ましているように」というすすめが二度繰り返されています。降臨節を迎える直前に、執事按手の恵みをいただく私に与えられた戒めであると、有難く拝聴いたしました。

執事職というものが、キリストの体全体に与えられた「奉仕の働き」を具現化するものである、という理解が聖公会にはあります。イエス・キリストの奉仕の働きを体現すること、これが執事に与えられている職務であると教えられました。今の、この私が、これからこの聖務をどれだけ行えるか、はなはだ不安ではありますが、笹森主教様の重い手の感触を忘れずに、また植松主教様からの「執事の大役を思い切り楽しんでください」というお言葉に励まされながら、これから新たな道を歩んで参りたいと望みます。執事の務めを尽くし、主の公会の徳を建て、ますます名の栄光をこの世に顕すように、目覚めて進みたいと思います。

早朝からの聖餐式にも関わらず、一〇〇名近い方々にご参列いただきました。また配信を通じご参加いただいた方も数多くおられると聞いております。これまでも、そして今も皆様の祈りで支えられている私です。どうかこれからも覚えてお祈りくださいますように。私も、皆様に神様の祝福が豊かにありますように、日々祈っております

2023年 日本聖公会宣教協議会 ぶどうの枝だより⑤

これまでの「ぶどうの枝分科会」について

来年の一一月に開催される宣教協議会は、当初は今年の一一月に開催する予定でしたが、新型コロナの感染状況の影響により、やむなく一年延期することになりました。しかし、ただ単に延期するのではなく、宣教協議会までの期間をより有意義な時間とするために、日本聖公会に連なるさまざまな団体と実行委員会とが分科会を行い、分かち合いの時を持つことが提案されました。この分科会は「ぶどうの枝分科会」と名付けられました。この分科会を宣教協議会のプロセスの一部として位置づけ、定期的に開催することになりました。

第一回目の分科会（管区諸委員会編）は、今年の二月二五日、三月四日に開催されました。管区諸委員会の代表者の皆さんをお招きしました。各委員会へのアンケートの回答をもとに報告があり、その後意見交換の時を持ちました。各委員会のこの一〇年の働きの恵みと、現在の取り組み、課題について分かち合いました。それぞれの委員会の多様な働きが、すべてイエス様につながっていることに感銘を受けました。

第二回目の分科会（青年委員・青年担当者編）は、五月九日、一五日に開催されました。管区の青年委員と各教区の青年担当者をお呼びしました。日本聖公会の中での青年たちやその活動について思いを分ち合い、各教区の青年活動の恵みや課題、青年たちの主体性といったことについて話し合われました。宣教協議会においても、青年たちを「お手伝いさん」として扱うのではなく、これからの聖公会を担う存在として接することの大切さが共有されました。

第三回目の分科会（原発問題プロジェクト編）は、六月九日に開催されました。管区の原発問題プロジェクトのメンバーをお招きしました。まず、プロジェクト委員長の長谷川清純司祭から「この一〇年の恵みと課題」と題するお話、プロジェクトメンバーの池住圭さんから「原発と核の問題と聖公会宣教課題について」と題するお話があり、その後意見交換がなされました。この分科会を通して、原発や核の問題は東日本大震災から一〇年を経てもなお現在の問題であることを強く感じさせられました。

「ぶどうの枝分科会」は、今後も続けられる予定です。来年の宣教協議会に向け、これからも多くの「ぶどうの枝」の皆さんと恵みや課題を分ち合えればと願っています。

（文責：司祭　北澤　洋）

▽旭川聖マルコ教会

「コロナだから」とはもう言ってはいられない。出来ることから動き出そう。婦人会が中心になって教会内のミニバザーを開始。二間の和室は物品販売会。二週続けての持ち帰り食品バザーは大盛況でした。子ども用の衣類は海外の必要としている国へと、藤星高校の活動に送りました。六日に久保田栄子さんと夫の勝三さんが洗礼の恵みを受けられた後、ミカエラ栄子さんご逝去。二三日エリサベツ溝口幸子さん札幌にてご逝去されました。

初雪を見た旭川。男性陣は保育園遊具の冬囲い、女性陣はバザーの片付けと降臨節を迎える準備に。クリスマス案内も配布され、園舎からキャロルが聞こえ、さあ、祝いの準備が始まりました。

▽岩見沢聖十字教会

一一月に入り幼稚園では聖誕劇の希望配役を年長より聞きました。来月はいよいよクリスマスを迎えます。その園ですが、新型コロナウイルスで休園が暫く続きました。

二二・二三日、札幌キリスト教会で教区会。信徒代議員の畠山秀明兄出席。会合に先立ち「教区の一〇年を展望して」とグループ討議。活発に意見が出されました。自由時間は北大構内を散策。クラーク博士像と昨年来の再会。博士は相変わらずお元気な様子。最終日、三浦千晴新執事の按手式。おめでとうございます。

▽釧路聖パウロ教会

▽厚岸（あっけし）聖オーガスチン教会（伝道所）

今月、釧路では高止まり中のコロナ感染者が三〇〇人超と過去最多を記録。第八波です。振り返ってみればこの三年間、コロナに振り回されっぱなしでした。が、教会にもさまざまな出来事がありました。

松井司祭の転任、吉野司祭の着任、植松主教最後の主教巡回、三浦千晴聖職候補生の来釧、笹森田鶴新主教の初巡回、厚岸オーガスチン教会の伝道所移行、幾人かの信徒の逝去…。そして教会暦はいよいよ新年を迎えます。

「来年はA年。福音書は『マタイによる福音書』です」と吉野司祭から。まさに光陰矢の如し。アッという間の一年でした。

二〇日の降臨節前主日、礼拝後、一〇人を越える信徒達がリース制作など、クリスマス準備に追われました。でもまたまた祝会もない静かなクリスマスになりそうです。

駐車場の擁護壁工事はスケジュールがずれ込みそうですが、来月上旬には終了しそう。コチラも光陰矢の如し、です。ともかく一刻も早いコロナの収束を。主よ、お見守りをお願いいたします。

アーメン

▽帯広聖公会

「散ると見ゆるは凡夫の眼、落ち葉は土に還るなり」とは以前どこかのお寺に掲げられた名言でした。教会の大きな銀杏の木もすっかり葉を落とし迎える冬の装いです。主日の礼拝前に庭掃除のご奉仕くださる婦人有志に心から感謝。七日諸聖徒日、今年天に召された三名の方、そして既に在天の三百名余の信仰の先達の、魂の平安をお祈りしました。一三日、教会でのお葬式、共同墓苑の利用規則など勉強会開催。大野総務担当委員のご尽力により、教会内連絡網のIT化に伴うメーリングリストが完成。情報伝達の整備が進んでいます。コロナが再びその勢いを増しています。諸兄諸姉のご自愛を祈ります。一二月は一八日、主教様ご巡錫、二四～二五日、管区総主事矢萩先生ご来訪の予定。大歓迎！

▽稚内（わっかない）聖公会（伝道所）

月を追うごとに礼拝前のストーブを付ける時間が早くなりますが、それでも暖かくなるまで時間がかかり、コートを羽織ったまま礼拝の支度をしています。

一一月一八日（金）、永谷司祭の司式により聖餐式。小さく見える主の食卓に豊かな恵みと祝福がいつもあり、賛美と感謝を献げました。クリスマス礼拝の予定も決まり、その楽しみとともに降臨節を過ごします。聖卓のダストカバーが古くなり新調することとなりました。クリスマス礼拝より新しくなる予定です。

▽苫小牧聖ルカ教会

教会玄関前には落ち葉が舞い、雪の代わりに落ち葉が積もっている苫小牧です。

一一月はクリスマスに向けてアドベントクランツの製作を礼拝後に有志で行いました。一一月二七日の笹森主教様の巡回でお披露目され、一本目のロウソクに火が灯りました。礼拝後は笹森主教様から父島のお話をスライドと共に見せていただきました。コロナ禍のため食事会はせずにサンドウィッチを配布しました。幼稚園では一二月のクリスマス会に向けての練習が本格化。元気な子どもたちの声が響き渡る聖劇や、一生懸命に取組むお遊戯が楽しみです。主に感謝。

▽函館聖ヨハネ教会

五日鈴木愛子姉の埋葬式が行われ、在りし日の姉を偲んだ。六日上平更司祭により、逝去者記念礼拝・墓地礼拝が好天に恵まれて実施され大勢が参加。一三日大雨の中、笹森主教様ご夫妻をお迎えして、収穫感謝、幼児・高齢者祝福式、奏楽クリニックが行われました。主教様は休む間もなく今金に向かわれ、そのエネルギッシュなお働きに感嘆と心配と道中のご無事をお祈りするばかりです。藤井司祭は目に見えてご回復。補式や聖餐式もされ、皆が喜びつつ案じています。コロナの脅威に戦々恐々の日々の中、降臨節を迎えました。

▽平取聖公会

一一月の最初の主日はいつも一年を通しての逝去者記念聖餐式です。六日聖霊降臨後第二二主日、午後からの礼拝でしたが、富川の木村詔子さんがご出席くださいました。同姉は渡邊誠伝道師のお孫さんです。ご両親のヤコブ敏さんとラケルトミエさんのお名前も読み上げられました。

個人消息。山崎喜一郎さんは町立病院に入院中、井澤敏郎さんはひざの手術を終えられ無事退院されました。

バチラー保育園の建設工事は順調に進んでいます。

▽網走聖ペテロ教会

一一月教会の周りは冬支度。駐車場排水口清掃を飯野司祭が担当してくださっています。今年も雨宮寿子さんが植えられた白鳥草が伸びやかに咲き、降臨節前主日迄の祭壇に飾られました。一三日は収穫感謝礼拝で、豚汁お赤飯紫蘇ジュース他参加者で昼食を楽しみました。二六日のペテロの会で、庭の松枝や高津家ツルウメモドキを利用して降臨節諸準備。「のあ」の子ども達も参加。ザカリア会輪読書『信頼のしるし』が終わりに近づき、次書は『今さら聞けない!?キリスト教』が候補です。

▽有珠聖公会

一一月二七日、聖餐式に先だって洗礼準備会が続けられています。降臨節第一主日、アドベントクランツに、最初のロウソクの火が点りました。礼拝には、久しぶりに幼子たちの姿があり、皆で喜びました。礼拝後、一二月一〇日に予定されていますクリスマスコンサートの打合せを行いました。三年ぶり第八回目を迎える今年の企画は、二つのバイオリンによるコンサートです。それぞれが、ポスターやチラシを携えて、帰途につきました。

▽留萌キリスト教会

気候変動の影響で気温が乱高下した一一月。

農家の小林さんは年齢を重ねた身体を休めながら、冬季間は街で暮らすための引っ越し中です。

名寄の藤井浤さんは、代議員として教区会に出席されました。ワクチン接種後の発熱が起きてしまうハプニングがありましたが、同行していた妻の妙子さんの看病のおかげですぐに回復できました。

岩見沢の本間初美さんのお姉さまが体調を崩して留萌市立病院に入院中です。快復を心からお祈りいたします。

▽聖マーガレット教会

第一主日は逝去者記念聖餐式。聖歌を満足できるほど声を出して歌えず、三年近く過ごしていますが、オルガニストのご奉仕もあり、今は少し歌えて嬉しく思います。教会委員会にて執事試験の合格と一一月二三日の按手式が報告され、一同喜び今後の希望を感じました。コロナ感染拡大を再確認しつつ、換気をしながら教会内外の清掃を済ませました。降臨節、アドベントを迎える様々な行事の準備をし、教会暦と共に新しい日々を迎えようと思います。ニセコの土地で沢山の恵みが与えられ楽しみました。心から感謝します。

▽札幌キリスト教会

北大構内の木々が葉を落とし、駆け回るリスの姿が見られる晩秋です。

一一月一三日は「子どもと共に捧げる聖餐式」。二〇日礼拝後には、クリスマスの飾りつけや教区会の準備を行いました。二三日に誕生した三浦千晴新執事のいっそうのご活躍を祈ります。「金曜ランチ」に来られる方々が厳しい冬を乗り越えられるように、クリスマス献金のご協力をお願いしています。

七日、ルツ三井夏子さん、一九日、ルツ須貝愛美さんご逝去。召されし魂の平安を祈ります。

▽札幌聖ミカエル教会

クリスマスに洗礼を受けられる方々の準備をはじめました。教会がご降誕と洗礼の二重の喜びに包まれることを楽しみにしています。教区会中の常置委員選挙にて、大友宣さんが再選、小澤暢子さんが新たに選出されました。主の導きをお祈りいたします。今年は転入者が多く与えられ、久留米より中村ひろみさん、苫小牧より遠藤智恵さん、他教派より土井雅子さん、新冠より奥田貞子さん、奥田光信さん、岩見沢より渡部哲哉さん、渡部柊子さんが転入。交わりを感謝します。三〇日、マリア廣木昭子さんが逝去、魂の平安とご家族への慰めをお祈りいたします。

▽新札幌聖ニコラス教会

今月二〇日は、当教会の献堂三〇周年を記念する礼拝が捧げられました。笹森主教の

二度目の巡回の日でした。コロナ禍の制限下で愛餐会はできませんでしたが、信徒一同でこの日の喜びを分かち合いました。みんなと作ることができなくなっていた「ごませんべい」もミニバザーに復活・出品されるなど、礼拝後の時間もにぎやかな時間を過ごすことができました。皆様のお祈り・お祝いのメッセージにも感謝!!

▽北見聖ヤコブ教会

窓の雪囲いも終わり、除雪機もメンテナンスを終え帰ってきました。

一一月六日、全逝去者記念礼拝・収穫感謝礼拝を行い、関係逝去者のお名前を読み上げて祈り、大地の恵み・労働の稔り・私たちの命の糧となるものを賜わる神に感謝を捧げました。一五日、留辺蘂の鴻上家の墓前にて墓参の祈り。翌日一六日、教会納骨堂にてキャサリン鴻上啓子さんのロザリオ埋葬式が執り行われました。

二二日・二三日、司祭は教区会に出席。三浦先生の執事按手式に深く感動いたしました。

▽今金インマヌエル教会

今年も祝福された種が丹精込めて育てられました。収穫されたお米や男爵芋、かぼちゃや牛乳等沢山の恵みを持ち寄り、主教様のもと、収穫感謝礼拝を守れた事に感謝致します。近年では収穫感謝礼拝を行わない教会もあるとの事に一同衝撃を覚えました。また二七日はイルミネーションと共に上平司祭とマンツーマンでの礼拝…有意義ではありましたが、少しでも多くの人々が集える教会になれるように、藤井司祭が健やかで在りますように、また遠方より来教して下さる主教様と司祭の皆様の安全が守られますように信徒一同お祈りしています。

▽紋別聖マリヤ教会

初雪が降ってからも暖かい日が多く、冬の訪れは遅くても構わないと思っていると、帳尻を合わすように一一月末には寒波がやってきました。今月は、諸事情により礼拝に参加できる人が少なく、二、三人でみ言葉の礼拝をお捧げしています。当教会の聖歌担当は、降臨節を迎えるにあたり、今年はどの聖歌を歌おうかと選曲に余念がありません。幼稚園の子どもたちは、寒さに負けず外遊びをして体力づくり。来月に迫ったクリスマス発表会の練習を頑張っています。

▽深川聖三一教会

一一月六日、教会委員会。保育園運営委員で保育園側より掲揚旗台設置の援助の申し出あり。一五日、笹森主教様からの手紙を一同で朗読す。二〇日、越山健蔵司祭の礼拝奉仕あり、感謝。二二日、教区会代議員佐々木佳三氏出席。二七日、その報告をいただく。長野県在住の植松誠主教夫人三千代さんからの手紙を朗読紹介す。今ごろは長野の風物詩風景として、どこの家でも軒下に干柿を吊るしているとのことです。

柿すだれ見上げる
　わらべの瞳（め）に宿る

▽室蘭聖マタイ教会

街路樹のナナカマドがすっかり落葉し、赤い実のみが風にゆれ、日毎に寒さを感じる季節になりました。

一三日、苫小牧より松井司祭来会、逝去者記念礼拝。先人を偲び共に祈る。聖餐にあずかり礼拝後委員会、クリスマス礼拝の件を話し合い、終了後マタイによる福音書の輪読会が行われました。

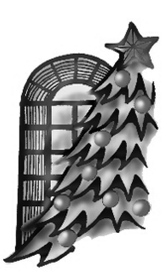
二七日、札幌より大町司祭来会、白藤啓子さんの娘さん高橋まり子さん礼拝に参加、共に聖餐にあずかりました。礼拝後クリスマスツリーの飾りつけを行う。まり子さんが手伝ってくださり短時間で終わる事が出来ました。心より感謝です。

▽新冠聖フランシス教会

紅葉が終わり木の葉も散り、教会の祭壇後ろのガラス窓には日高山脈が白い帽子をかぶり、くっきり見えるようになりました。聖霊降臨後第二二主日、降臨節前主日及び収穫感謝祭を無事終える事ができました。一一月二〇日の収穫感謝祭では各自海の幸、山の幸をお捧げし、感謝と共に日常の生活の中にいつも聖霊を求め御子を待ち望む備えを心に止めつつ歩んで行けるようにとの勧めに感謝です。

この日は山田家より沢山の長ネギを皆さんへとの事で、教会の玄関前へ運んでくださいました。一同感謝！

▽小樽聖公会

一一月一六日（水）から一八日（金）、執事按手前リトリートが本教会にて行われる。執事志願者三浦千晴聖職候補生はもとより、笹森主教をはじめ四名の司祭が参加。食事においても沈黙を守り、毎日、聖餐式をささげる。参加者一同、心を神に向け集中し、祈りのうちに二泊三日のリトリートを過ごす。その間、小樽市内は雪景色。

一一月二〇日（日）、降臨節前主日。礼拝後、アドベント・クランツ等の準備をみんなで行う。一年の公会暦、その最終主日。おわりにおいてはじまりの備えをなす。